

2005年6月11日

第1回「ふるさと銀河線代替交通確保協議会」報告

銀河線の再生は可能 !!

財産譲渡を受け、新会社立ち上げれば

銀河線再生か、バス転換かを調整する、北海道運輸局主催の「ふるさと銀河線代替交通確保協議会」が6月10日、同幹事会が6月11日、それぞれ北見市内のホテルで開かれました。

10日の協議会では、伊藤國男同局長が ①永続的にバス運行できる仕組みが必要 ②当面この協議会はバス転換を協議するが新たに鉄道事業者が現れた場合はこの協議会で調整する、とまとめました。

このまとめを受け、11日の朝日新聞は「銀河線存続余地残す一承継会社あれば」と報道しました。この報道後、11日午前10時から第1回幹事会が開かれました。幹事会の冒頭、道庁の幹事からこの報道について、「10日の協議会では鉄道存続の意見が出なかったのになぜこのような報道になるのか」との質問がありました。これに対し江里口善和同局鉄道部長は「6月3日の同運輸局の意見聴取において、『ふるさと銀河線再生ネットワーク(下斗米ミチ代表)』から鉄道存続要求の陳述があったので、それを含めてまとめた」と答弁しました。

さらに「新鉄道会社設立のタイムリミットはいつか」の質問に対し、同部長は「鉄道事業の申請から許可まで3ヶ月を要するので、ちほく高原鉄道から財産譲渡の合意を得て年内に立ち上がる必要がある」との見解を明らかにしました。

「銀河線廃止は決まったのでは…」との認識があります。たしかにちほく高原鉄道から廃止届が出されました。しかし、同社から、財産譲渡を受けた新会社さえ立ち上げれば、再生可能です。私たち「再生ネット」も新会社設立に向かって努力中です。この後展開する「1株予約運動」にぜひご協力をお願いします。